

## 【単年度事業評価様式】

**西区地域子育て支援拠点事業**  
**令和7年度重点目標評価結果・令和8年度重点目標**

事業実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(5年度目／5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人シャーロックホームズ 西区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 西区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

## 令和7年度重点目標の評価

令和7年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ期から乳幼児までの切れ目のない支援のさらなる仕掛けづくりを実施する。</li> <li>・0～1歳児だけではないそれ以上の幅広い年齢の親子が利用しやすい取り組みを実施する。</li> <li>・区内外の子育て支援の外部機関のネットワークの垣根や世代の垣根を越えて子育て支援を実施する。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ期向けに、スマイル・ポートのプログラムが時系列に取り組めるような情報の発信をした。</li> <li>・大きい子向けには、廃材や段ボール遊具などを使って、遊びの幅を広げられる環境を整えた。</li> <li>・屋外での保育園児と地域の子どもの交流の場をつくった。</li> <li>・小学生にも拠点や子育てについて知ってもらう機会をつくった。</li> <li>・中学生のふれあい体験について、地域の子育て支援の関係者に親子の募集や当日の企画を依頼し、地域全体で人材育成に取り組んだ。</li> <li>・全ケアプラザや外部機関との共催イベントの実施により参加者を拡げた。</li> </ul>
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳児以上向けに、段ボールをつかった手押し車やひっぱる箱を親子一緒に製作し、それを使って遊ぶことで親子の遊びの幅が広がった。</li> <li>・子育て関連施設連絡会で「公園にいてみよう」イベントを5回実施し、親子と保育園児との交流の場をつくることができた。また、センター園や地域の団体との連携も図ることができた。</li> <li>・教育委員会事務局主催の「子どもアドベンチャーカレッジ」に初参加し、小学生に赤ちゃんのお世話体験や親子との触れ合いを通じて命や子育てへの関心をもってもらった。また、大学生がサポーターやボランティアとして参加していたため、異世代の交流もできた。</li> <li>・西区内の小学生が拠点に来館し、マジックショーを披露するとともに親子とふれあう、交流の機会をもった。小学生は小さい子の可愛さをあらためて理解し、養育者は少し先の子育ての見通しがもて、互いにとって有意義な時間となった。それに先立ち、小学校へ子育てパートナーが出張し、拠点の説明も行い、子どもたちや学校にも拠点の役割について周知ができた。</li> <li>・西区学区の3中学校で親子のふれあい体験を地域の主任児童委員、PTAなどと連携して実施した。岩井原中学校では、近隣区の拠点、主任児童委員とも連携できた。</li> <li>・西区内4地域ケアプラザや外部機関と連携し、各地域ケアプラザと共催イベントを行った。なかでも、一般社団法人ダブルケアサポートによる研修では、多くのケアマネージャーが参加し、ダブルケアという社会問題への関心をもってもらうことができた。</li> <li>・サポートが必要なお子さんとその家族に向けた「就学の話」イベントでは、地域ケアプラザの他、ガッツ・ビーと西と連携実施することで、ネットワークがさらに強固なものになった。</li> <li>また、地域のサロンでパパ向けイベントとして、離乳食講座を実施し、今まで参加してなかったパパたちの参加を得ることができた。</li> </ul>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ期からの情報発信については、周知にとどまったので、次年度も継続して取り組む。</li> <li>・2歳児以上の子がいつでも遊びやすい環境を整えることは次年度以降も取り組んでいく。</li> <li>・外遊びプログラムは想定していた以上に参加者がいて、ニーズがあることがわかったので、次年度はさらに回数を増やすなど取り組みを強化する。</li> </ul>

## 次年度重点目標

<p>令和8年度 重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から拠点の役割を周知し、産後早い時期からの利用を促進することで親子が地域にかかわりながら育児できる環境を整える。</li> <li>・養育者ができる範囲で子育てを支える側にまわることを促進し、また次世代である子どもたち(小中高大学生)が、子育てや乳幼児を身近に感じ、理解や関心を深めるためのサポートを地域や関係機関とともに実施する。</li> <li>・区内外の子育て支援の外部機関のネットワークの垣根や世代の垣根を越えて子育て支援を実施する。</li> </ul>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から拠点の存在を知ってもらうために、広報よこはまに拠点の機能・役割等について掲載するなどして、周知を行っていく。</li> <li>・区で実施する事業(「ぎゅっトレ」など)に拠点のスタッフが出向き、参加者に拠点の機能・役割を理解してもらい、拠点の利用促進につなげる。</li> <li>・4か月児健診に子育てパートナーが参加し拠点を周知し、拠点へ来たことのない養育者を導く。</li> <li>・近隣の赤ちゃん教室にて「子育てパートナーと一緒にスマイル・ポートにいてみよう」企画を実施し、赤ちゃん教室終了後の参加者を拠点に案内する。</li> <li>・初来館した親子のリピート利用につながる仕掛けを実施する。</li> <li>・拠点利用の養育者が情報発信やひろばのサポーター活動に参画する取り組みを実施する。</li> <li>・区内の小学生の拠点でのふれあい体験を促進する。</li> <li>・中高生の学校でのふれあい体験等を地域やPTAと連携して実施する。</li> <li>・神奈川大学の学生による子育て支援の企画(マネジメントプログラム)の実現をサポートする。</li> <li>・学齢期以降の課題解決のためのネットワークづくりをする。</li> <li>・区連合町内会・自治会連絡協議会や区民生委員・児童委員協議会へ参加し、拠点で実施している事業についての周知をする。</li> </ul>